

【次世代】施策の柱36

①予算事業名	国際海洋資源・エネルギー利活用推進事業	予算科目	2-1-10-24	基本構想上の位置づけ 上段：「島づくり目標」 下段：「施策の柱」	次世代のための島づくり 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上
②担当部課名	プロジェクト推進課	事業実施(予定)年度	H30~H32	基本計画の該当箇所	施策の柱36-2

③事業内容
・海洋温度差発電と海洋深層水の総合的利用を組合せた「久米島モデル」実現のため、平成26年7月21日に「国際海洋資源・エネルギー利活用推進コンソーシアム」が設立された。本コンソーシアムが主体となって、取水量10万トン敷設と国際海洋資源・エネルギー研究センター建設を目指す。本事業では海洋温度差発電の導入促進を図るため、取水量10万トン敷設に向けた事業化に取り組むとともに、再生可能エネルギー(太陽光、風力等)の導入促進を図り、エネルギー自給率の向上を目指す。

④実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		28年度	29年度	30年度	31年度(予定)	32年度(予定)
⑤事業費 【単位:円】	財源内訳					
	(a) 国庫					
	(b) 県費					
	(c) 地方債等					
	(d) 一般財源	9,794,000	6,091,000	5,739,000	15,000,000	15,000,000
	計(a~d)	9,794,000	6,091,000	5,739,000	15,000,000	15,000,000
特定財源名		(a) または (b) の名称			(c) の名称	

年度	実施する具体的な事業の内容
平成30年度	海洋温度差発電と海洋深層水の総合的利用を組合せた「久米島モデル」実現のため、取水量10万トン敷設に向けた事業化に取り組む。(国、県への働きかけ、事業申請等) 再生可能エネルギー計画(仮)に向けた事業化に取り組む。
平成31年度(予定)	海洋温度差発電と海洋深層水の総合的利用を組合せた「久米島モデル」実現のため、取水量10万トン敷設に向けた基礎調査(深淺測量・環境生物調査等)を行う。再生可能エネルギー計画(仮)の策定。
平成32年度(予定)	海洋温度差発電と海洋深層水の総合的利用を組合せた「久米島モデル」実現のため、取水量10万トン敷設に向けた基礎調査(磁気探査・土質調査等)を行う。再生可能エネルギー(太陽光・風力等)の導入促進に係る取り組み。

成果目標(指標)		基準値(29年度)	30年度	31年度	32年度	目標値(37年度)
再生可能エネルギーによるエネルギー自給率の向上 ※再生可能エネルギーによるエネルギー自給率は再生可能エネルギー計画(仮)策定後、数値目標を設定する。	目標	(/)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-	-	/
CO2削減量 ※CO2削減量は再生可能エネルギー計画(仮)策定後、数値目標を設定する。	目標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	/	-	-	-	/

⑦成果目標(指標)及び進捗状況
 事業成果効果等
 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率の向上やCO2削減による環境保全に寄与する。

⑧写真及び図面

エネルギー・水・食糧自給のモデル地域
取水量10倍でできること

1MW海洋温度差発電
電力(1MW)
深層水(設備増強)
深層水(設備増強)
電力(1MW)
深層水(設備増強)
電力(1MW)
深層水(設備増強)

既存事業の拡張
技術と販売ルートが確立しており、確実な収益が見込める分野
養蚕
次世代型養蚕
畜産
水産
農産
林産
加工・流通

食料から商売へ
現在久米島で実証中の分野
水産
畜産
農産
林産
加工・流通

技術のモストレーション
他地域へのモデルとしての技術デモ
水産
畜産
農産
林産
加工・流通

技術創出
将来需要が高い分野の研究開発
水産
畜産
農産
林産
加工・流通

Photographs showing solar panels and wind turbines, illustrating the renewable energy infrastructure.